



南阿蘇村長
吉良 清一
きら せいいち

南阿蘇村の

「未来」へ

新年明けましておめでとうございます。

村民の皆さまにおかれましては、令和3年の新春を穏やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃から村政運営につきまして、ご理解とご協力をいただき深く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、国内はもとより村内においても新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年であったと思います。小中学校の長期休校をはじめ、各種イベントや行事の中止、県外外出の自粛、3密の回避など、村民の皆さまにも感染防止に向けて格段のご協力とご負担をお願いした年となりました。

また、熊本県南地域においては、令和2年7月豪雨が甚大な被害をもたらしました。犠牲になられた方々、被害に遭われました皆さまに、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

本村におきましては、熊本地震で被災した農業用地・施設災害については9割以上が工事完了しました。また、8月にはJR豊肥本線が、10月には国道57号線の現道部が全線復旧しました。復旧に際しご尽力いただきましたJRや国土交通省復興事務所の皆さま、多くの関係者の皆さまに改めて感謝申し上げます。

さて、今年も、旧久木野庁舎に、図書機能を備えた子育て拠点や住民の交流場がこの春に完成予定です。

併せて3月には、いよいよ待ちに待った国道325号線の新たな阿蘇大橋が完成予定です。村民の皆さまの利便性、観光客のアクセスも改善し、これを機に村の産業や観光に活気

が戻ることを期待しています。

国道325号線の全線復旧によって、南阿蘇鉄道を残し、熊本地震で被災した大規模インフラの復旧はおおむね終了しますが、昨年改訂した「南阿蘇村復興むらづくり計画」に基づき、熊本地震からの復興を着実に進めて、安心して楽しく豊かに暮らせる南阿蘇の実現を目指します。

一方で、人口減少・少子高齢化そしてデジタル社会が到来するなか、新型コロナウイルス感染症対策など突発的な課題にも対応する必要があります。そのためにも、行財政改革を進めて健全財政の維持と財政基盤の強化を図りながら、今後も村民の皆さまとの対話や、ご意見をお伺いし、「第2次南阿蘇総合計画(改訂版)」に掲げる「環境・活力・暮らし」の政策を着実に進め、皆さまと一緒に南阿蘇村の「未来」を見据え、「誰もが住みたい、住み続けたい南阿蘇村」の実現に向けた村政を邁進してまいりますので、なお一層の力添えをよろしくお願い申し上げます。

新春の門出にあたり、皆さまにとりまして健康やかで幸せな年となりますよう、心からお祈り申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。



新

“清新の気”をもって 議会運営を！



南阿蘇村議会議長

あらまき しゅんいち
荒牧 俊一

新年明けましておめでとうございます。
村民の皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお慶びを申し上げますとともに、日頃より議会活動に対し、温かいご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

令和2年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症に振り回された1年であったように思えます。この新型コロナウイルス感染拡大は、いまだに収束の兆しを見せず、現在も進行しております。人の動きが制限され、経済の落ち込みや暮らしが一変し、大変な年となりました。ようやく世界レベルでワクチンが開発され、接種も始まりました。日本でも早く実用化され、1日も早く収束することを願うばかりです。

本村においても危機感を持って感染予防対策をはじめ、雇用対策、休業支援、全村民に商品券の配布をするなどの緊急経済対策を打ち出し、経済回復に努めてまいりました。本年も執行部と一体となり、引き続き対策強化を図ってまいりたいと考えております。

その他の話題としまして、昨年は国道57号現道部の開通、JR豊肥本線が全線開通し、大きな交通インフラの整備が完了したことにより、本村への入り込み客が増加することが見込まれ、産業・観光をはじめとする経済浮場につながるものと期待しております。また、応急仮設住宅からの住まい再建も、3月末までには全世帯の退去が完了する予定となっております。このように年を重ねるごとに社会・生活基盤の整備が確実に進められてきたことは、進化する村の象徴として、また創造

的復興に向けて着々と前進している証であり、村民の皆さまのご理解とご協力、関係各位のご尽力に対しまして、改めて敬意を表します。

さらには、本年は待望の新生「白水小学校」が開校いたします。これまでの中松、白水、両併の3小学校の歴史と伝統を尊重し、新しい歴史の1ページをしっかりと築いていただき、子どもたちの躍動感あふれる学校生活を期待しております。

さて、私は、復興・発展の思いから、平成29年は『蘇』（蘇れ故郷。地震からの蘇生を願うために）、平成30年は『気』（全国からの多くの支援に元気をいただき、やる気、勇気につながるために）、令和元年は『信』（信は力なり。心一つに復興を図るために）、令和2年は『前』（勇往邁進。一丸となって前進するために）と、願いを込めて紙面に一文を掲げてまいりました。本年は『新』という文字を掲載させていただきました。本年、議会は二月の選挙に伴い新体制となりますが、これまでの議会の在り方を継承し、『清新の気』をもって、団結した議会運営を切望いたしております。

本村はこれまで幾多の災害を乗り越えてまいりました。特に熊本地震から5年を迎えようとする今年は、震災からの完全復旧と、創造的復興のため総力をもってむらづくりに進進する『新生』の年として発展していくことを願っております。

村民の皆さまの代表として議会の果たすべき役割と責任、そして使命感を深く認識し、皆さまの声を村政に届ける活動を今後もおこなってまいりますので、変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。